



TITLE:

西から東へ(その二)

AUTHOR(S):

水野, 千里

---

CITATION:

水野, 千里. 西から東へ(その二). 天界 1925, 5(53): 192-194

ISSUE DATE:

1925-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160251>

RIGHT:

## 西から東へ (その二)

## 水野千里

第四日 三月二十七日 雨

鳥取から京都まで

一、雪の山陰線。夜來の雨が未だ止まぬ。大坪氏の見送りを受けて、午前九時鳥取發京都に向つた。沿線の山々は雪を頂いて居るが、柳の芽は萌え出で、梅の花は今を盛りと咲き亂れて居る。出雲今市以東は曾遊の地である。福知山で乗替へ、保津川の急流を車窓から眺め、午後四時五十六分二條驛についた。

二、山本教授の水野發見。二條驛前から電車に飛び乗り、熊野神社前で降りて、岡崎、西福の川一の三六の山本先生の新しい御住居を尋ねて、一番地は探しあてたが、數十戸あるので、探して居た最中、ニコ／＼の紳士が水野發見と呼ばれるので、オヤと思つて、能く觀る。山本先生であつた。先生は去大正十一年九月御渡米、歐洲、印度洋を経て今回御歸朝になつたのである。先生には余が天文臺の方へ行くかもしれないとて、待つて居られたが、遅くなつたので、

宅の方へ直ちに來るのであらうとて、御歸りの途中で計らずも御目に懸つたので誠に嬉しかつたのです。滿三ヶ年程、遠く離れて居たが、心は近かつた。御手紙を戴くし寫眞を送り、御機嫌を伺つて居たが御姿に接しないのを遺憾に思つて居たのである。早速御仲して新しい御住居に参り、久々で奥様に御目に懸り、ニコ／＼として居られる御令息、進さん、修さんの晴れ／＼しい紅顔を見て涙ぐましくなつた。昨年四月滋賀縣に御留守宅を訪問した時、御令息は神戸に御父さん、御母さんの出迎へに、御祖父さんと行くのであると、指折り數へて待つて居られたが、其の時が來て、再び御兩親の膝下で楽しい月日を送られる様になつたのである。

三、山本教授の土産話。澤山のお土産話を聞いたが、その中の主なものを次に記さう。

1、七十七ヶ所の天文臺視察。米國で三十一ヶ所、歐洲と上海とで四十五ヶ所。今一ヶ所は神戸の海洋氣象臺で合計七十七ヶ所の天文臺を視察されたさうです。しかし熱心に忠實に日々觀測したり、眞剣に研究して居る天文臺は少い。その事では

た。

2、二百五十吋の大反射望遠鏡。目下巴里に於いて二百五十吋の鏡を製造すべくリチー氏が苦心して居る。同氏はウキルソン山や、ヤーキースの大反射鏡の製作者であるが、直徑二百五十吋の反射鏡は鑄物では出來ないから、硝子を接ぎ合せて製造する方針で、接ぎ合すにセメントを以てすることにされ、そのセメントは目的通りのものが作られたので、いよ／＼これから大反射鏡を製作する段取りとなるので、これに成功すれば世界第一のものである。ウキルソン山上の百吋反射望遠鏡もこれに比しては顔色なしだ。世界一を以てゞなければ満足せぬ、米人はヤンキーの本性を現はし更に大々的望遠鏡を作るであらう。

3、日本に天文臺は三十ヶ所、各府縣其の他主要地三十ヶ所に天文臺を設置したい。反射望遠鏡を据付けらるゝならば、經費の多くを要せない。第一着として大學又は高等學校所在地に四吋以上の望遠鏡を備付け相互に連絡をとりて研究を進行させ度いものである。學問に國境なし特に天文學に於て然りである。

4 天文同好會の天文臺。官公立の天文臺も必要であるが、民衆に提供すべき天文臺、同好者が自由に觀測することを得る天文臺趣味を養ふ爲めの天文臺の如きは、天文同好會で設置したい。支部所在地には第一着に……鳥取大坪氏の談によると、三時以上の望遠鏡十數本を取扱はれたさうだから同好會員中にも相當の所有者がある。岡山縣下にも三時望遠鏡が七臺は餘かにある。實に前途有望なことである。

5、會員一萬人運動。歐米各國を巡遊したが、我が天文同好會の如き、あらゆる階級に歡迎せられ一千餘の會員を有つて居る天文の會は少い。天文に興味を有して居る人は多いが、天文同好會の有るのを知らない人が多いから、全國に亘つて宣傳したら一萬の會員を得ることは六ヶ數はあるまいと。五百名運動、千名運動は過去のこと、百尺竿頭一步でなく、數十歩を進めて一萬名運動！特に東京に多數の同好會員がある中で、早速支部を設けて東西相應じて、大に活動したいものであると。

6、天文學全書。先生は畢世の事業として、全國に亘り六十ヶ所以上の天文臺を設

置すること、今一つは天文學全書の刊行であるを申された。此の一書さへ緋けば天文に關することは何でも分らないことはないといふ一大著述を計畫されて居るので、少くも二、三千頁の大冊、後世に残すべき意義ある學者の仕事である。

7、小遊星一千二十四ヶ。一八〇一年に小遊星「セレス」が伊太利のピヤッシーに發見されてから、一九二四年六月三十日迄に一千を超ゆる、こゝ二十四ヶ發見された。彗星の發見も頻繁となつて來て、現に今日も二ヶの發見電報が到着したとの事。因に云ふ、本年は彗星の大當り年で六月にはシヨール彗星、七月にはテンベル第二彗星、九月にはフアイエ星、十月にはホレリ彗星年末迄にはスキフト、ウォルフ、コッブ、タツトル、テグイコ等の周期的彗星が現はれる筈である。

8、世界一週。横濱出帆、太平洋を横斷して米國に滞在二ヶ年。其の間に米大陸を三回横斷され、一九二三年九月十日の日蝕觀測の爲め加州カタリナ島迄遙々旅行され、歐洲では露西亞と境地利さを除いた主な國々を巡遊され、伊太利ナポリ港から、鹿島

丸で印度洋を経て、神戸港に上陸されたので、東へへと世界を一週されたので、一廉の地理學者となつたと申された。例へば西班牙の都會で中等學校で教へて居るのは何處々かこのこと、マドリッド、パルセロナ、パロス、コルドバ等であるといつたら、それ等は大抵旅行した。殊にバルセロナ最近の發達は著しいもので、「天界」に連載されつゝある海外日誌は歐洲に入つて一段の興味があるのであると申された。

9、瑞西と我が國との風景。世界を漫遊して風景の雙璧は瑞西の山水と我が國の風光とであることを知つた。兩國の風景は根本に於て異なる點はあるが、他に之れに比すべきものはなく、瑞西は山に於て、我が國は海を得て、益々其の美を増して、實に世界に於ける二大樂園地であると。

10、一昨年の大震災。關東の大震災、あの思ひ出すさへゾッとする大災。東京、横濱の全滅といへば、日本全土の破滅の如く考へて居た米人が多くて、我が國の面積は英本國に二倍する程あるといふことを知らない。學校の地理教科書にある日本の記事は二、三行に過ぎないので、日本に關する

知識は實に貧弱なものである。

11、國際聯盟と米國の横暴。ウキルソン大統領の首唱した國際聯盟に對する御所見を承つたところ、國際聯盟には種々の缺陷があるので、一部の人々が期待して居る程の效果は怪しいものである。米國人の本邦人に對する横暴は實に著しいもので事毎に、露骨にありもせぬ統計を示し、敵意を狭んで居ることは實に明白なもので、本年の海軍大演習といひ、昨年の移民法案の如き、總て本邦人に好感を以つて居ないので將來の事を考ふるときは寒心の至りである。

12、世界一の大日本帝國。二ヶ年半に世界の強國ニ米、英、佛、伊を始めとして、獨蘭、白、西等の諸國を視察されたが、米國では生命、財産に對する不安著しく、公園等しかも紐育の如き所ですら、盜賊横行し風儀の悪しき驚くべきものがある。佛蘭西の疲弊の甚しきは想像に餘り、西班牙人の怠惰、鬪牛の今日に至るも行はれて居るなど言語に絶すること、伊太利は活氣乏しく、英國は稍々可なるも我が國の如く安心

して生活は出来ない。獨逸は全力を盡して復興に努力して居るので其の成績の見るべきものはあるが、大戰前の獨逸に歸るのば前途遼遠である。塊地利と露西亞に足跡を印せられなかつたが、前者の亡國に等しきに反し、後者は總てが、わり直してであるから、世人の思つて居る程危険でなく萬事着々と其の功を修め、あの財政の豊ならざるに拘らず教育方面に力を用ひ、天文臺の如きも、設備を整へ、或は新設せられたものも尠からず面目を一新しつゝあるのである。忠君愛國の念燃ゆるが如く、國內平穩にして、活氣に富み、國民の緊張せる世界に比なく、東方の神國は實に世界一の平和なる國で、外遊二ヶ年半の結論に曰く世界各國と我が國とを比較するに、我が國に優れる國はなく、實に世界一の大日本帝國に生れたのを祝福せざるを得ない。これが熱心なる基督教信者山本先生の御感想である。

四、リイド彗星。本日天文臺に彗星發見の電報が着いたので、山本先生のお伴をして午後十時過ぎ、天文臺に行つて見る。電燈が

## 二八

輝いて居た晝を欺く如く。これは伊藤助手が新彗星觀測の爲めに出勤されて居たからであつた。天文學者は矢張天文學者だと思つた。同氏の談によれば、今日の空は餘りよくないので、シャイン彗星の方は駄目だがリイド彗星は觀測することが出来た。事。早速七時赤道儀に駆付けて觀測した。成程乙女星座の傍にボーとした星雲が彗星が判明しないものがあるが、これが示された位置なので山本助教はこれをスケッチされた。天體唯一の愛嬌物土星を觀せて貰つて、先生の御宅に歸り翌日午前一時迄も話しば盡きなかつた。(つゞく)

## 名古屋支部

去る五月九日久しぶりで大講演會を開き左の講演があつた。

星が生れてから死ぬまで 荒木俊馬氏  
彗星の話 山本一清氏

會場は第一女學校々堂で、約三百人集まつた。翌日講師は同市の清話會に招かれて左の講演をした。

太陽と日食 山本一清氏  
星雲の話 荒木俊馬氏